

2021年度 シラバス原簿						タイトル		講義内容と事前事後学習内容	
科目名 英語名	総合科学特論「日本と世界」 General Science ~In Japan and The World~					1 週	ガイダンス	事前 2.5hr	シラバスの内容を読んでおく。自分が千葉工業大学に入学しようと思った動機を振り返り、まとめておく。
								事後 2.5hr	講義内容を復習し、興味を持った内容をまとめておく。
科目 担当者	小宮 一仁					2 週	情報化社会・グローバル化社会の中の日本	事前 2.5hr	日本の国民一人当たりのGDPの国際順位の変遷について調べて、順位の変化の理由について考察しておく。
								事後 2.5hr	国際競争の激化に伴い企業は積極的に生産拠点を海外移転を進めている。また、労働力人口全体の減少に加えて、海外生産の増加や業績不振に伴う人員削減により、国内の製造業の事業者数は一貫して減少していることなどの日本の現状を講義し、日本の科学技術の課題について教授する。【講義担当:小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】
開講学期	時間数	単位	科目の区分	曜日時間	履修制限	3 週	日本の大学と欧米先進国の大学	事前 2.5hr	入試から、大学での授業、大学生活を振り返って、それが自分の将来に役に立つかどうかを考えておく。
5・7学期	2	2	選択	木曜日4・5限 木曜日7・8限	特になし			事後 2.5hr	イノベーションを生み出す人材を養成する大学。日本と欧米先進国の大学の違いについて、工学教育を例に紹介し、世界を相手に仕事をするためのヒントを教授する。【講義担当:小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】
目的	<p>【目的】世界の中で日本が置かれている現状、日本の役割、グローバル社会を理解するために必要な内容をポイントを絞って学び、知識・教養を高め、果敢にして実行力のある意志を培うことを目的とする。</p> <p>【授業概要】原則として、①授業の紹介→②途中休憩を挟んで約90分の講義→③約20分の討議あるいは課題解答の形式で行う。①と③の進行は、毎回小宮学事顧問が行う。②の講義は、学事顧問と特別教授が担当する。</p>					課題解決型 <input checked="" type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	
							ディスカッション	<input checked="" type="checkbox"/>	
							ディベート	<input type="checkbox"/>	
							プレゼン	<input type="checkbox"/>	
							実験・実習・演習	<input type="checkbox"/>	
フィールドワーク	<input type="checkbox"/>								
注意事項・ 学習アドバイス	<p>※5・6限の講義あるいは7・8限の講義のいずれかひとつを履修してください。</p> <p>※原則対面式の授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によってはそれ以外の形式の授業になる場合もあります。</p> <p>※この科目は寄付講座ですので、担当講師は千葉工業大学学事顧問及び千葉工業大学特別教授となります。講義に関するお問い合わせは、教務課に連絡して下さい。</p>					6 週	先進諸国と比較した日本の財政の課題(2)	事前 2.5hr	令和3年度の日本の予算について調べて、まとめておく。
								事後 2.5hr	政府の歳入の大宗を占める租税収入、また、主な歳出である社会保障費、特に医療、年金、介護について、日本の制度を概観した上で諸外国の制度と比較検討する。その上で、日本の制度がどう違うのか、なぜ違うのか、利点欠点は何かを考えて、制度が抱える問題点、改善点を探っていく。【講義担当:田代政司特別教授(元会計検査院事務総長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】
到達目標	<p>・自分が学んでいる専門分野について、日本と世界の動向を結びつけて考えることができる。</p> <p>・自分が学んでいる専門分野について、日本が世界と強くつながっている具体的な一例をあげて、説明することができる。</p>					7 週	日本の大学と欧米先進国の大学	事前 2.5hr	入試から、大学での授業、大学生活を振り返って、それが自分の将来に役に立つかどうかを考えておく。
								事後 2.5hr	イノベーションを生み出す人材を養成する大学。日本と欧米先進国の大学の違いについて、工学教育を例に紹介し、世界を相手に仕事をするためのヒントを教授する。講義担当:小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】
評価基準	<p>期末試験 0% 中間試験 0% 小テスト(0回)0% 提出物(6回)100% プレゼン(0回)0%</p> <p>各講義担当者(6名の予定)が、講義内容に係るそれぞれ100点満点の理解度確認のための課題を出題する。複数の回で講義を行う講義担当者場合は、出題される課題は1回とは限らないが、各講義担当者の課題の合計得点は100点である。したがって、総得点(満点)は600点となる。課題の指示に従ってレポート等を提出し、全提出物の得点の合計点を6で除した得点が60点以上を合格とする。</p>					8 週	国際物流から見た日本と世界	事前 2.5hr	日本の物流について調べて、まとめておく。
								事後 2.5hr	島国である日本は国の発展を国際物流に依存しているといっても過言ではなく、国際物流における日本のプレゼンス確保は極めて重要な政策課題である。このよみ観点から、国際物流を通して日本と世界を俯瞰し、如何にして日本がリーダーシップを発揮していくべきかについて考察する。講義担当:菊地智雄特別教授(元国土交通省技監)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】(オンライン配信)
関連科目	なし					9 週	東アジア情勢と日本の政治の行方	事前 2.5hr	マスメディアの役割について調べて、まとめておく。
								事後 2.5hr	日々刻々と変化する政治情勢やそれを伝える報道の基本的な仕組みについて特に日本を含む東アジアの情勢について講義する。また、世界の中で日本が置かれている状況や、日本の政治に求められる役割についても触れる。講義担当:石橋文登特別教授(元産経新聞編集局長・次長・政治部長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】
参考書・参考資料等	なし					10 週	日本型イノベーションと世界	事前 2.5hr	日本社会におけるイノベーションの事例を調べて、まとめておく。
								事後 2.5hr	中井正一や三枝博音を例に取り上げ、近代日本の哲学者が文化と技術についてどのように考えてきたかを考察する。【講義担当:土屋恵一郎特別教授(前明治大学学長)、小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】
11 週	科学技術の変遷と国家(1)	事前 2.5hr	アルキメデスの功績や人物像について調べて、まとめておく。						
		事後 2.5hr	古代から中世に至る科学技術の変遷と、時々の先進技術や工学が国の発展にどのように寄与したかについて教授する。【講義担当:小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】						
12 週	科学技術の変遷と国家(2)	事前 2.5hr	産業革命について調べて、まとめておく。						
		事後 2.5hr	近代から現代に至る科学技術の変遷を教授し、新型コロナウイルス感染終息後の世界を見据えて、千葉工業大学の学生が何を学び、何を身に付けるべきかということ考察する。【講義担当:小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】						
13 週	脱炭素化社会ー日本と世界のコーポレーション	事前 2.5hr	クリーンエネルギー利用の現状について調べて、まとめておく。						
		事後 2.5hr	脱炭素化社会を目指すには、さまざまな分野の協力が不可欠である。ここでは、エネルギー問題に焦点を当て、日本及び世界各国の技術レベルの比較や、将来にむけての協力の重要性を考える。【講義担当:小宮一仁学事顧問(前千葉工業大学学長)】						